

■山（森）を観光資源として活かせば、徳之島の観光はまだ伸びる。しかし、現状ではゴミの投棄や希少植物の採取による減少などの課題がある。

■いかに島の人人が島の自然を知って活かすかがポイント。

■島の人も行かない山に、観光旅行者を連れて行くためにはどうすればよいかというの

現在の懸案事項。

■山（森）に観光旅行者を入れるとハブがネックとなる。時期を考える等必要。

■低地では、信仰の対象とされていたことが森が残されて



きたこととリンクしていたと想像される。

■「誰でも来てください。」ではなく、利用システムやルールを作つて受け入れる必要がある。

**徳之島
天城町**

1月 11 日



国立公園の

1 月 11 日と 2 月 25 日に、徳之島の天城町と与論町で国立公園の（観光）利用についての会議が開催されました。

この会議は、現在進められている世界自然遺産登録を視野に入れた国立公園への指定に向けた取組の一環として行われたもので、奄美大島（名瀬 11 月）、沖永良部島（知名 12 月）に次いで今年度 3・4 回目の開催となります。

会議は、自然や文化、観光関係者、地元行政機関等が集まり、徳之島では森林の利用について、与論島では海の利用について議論が行われ、次のような意見が特に印象に残りました。

利用とは？

■与論島では、昭和 40 年代中頃から 50 年代中頃までの間、多くの観光客が訪れたが、沖縄の観光受入体制が整備されるに従い、観光客は減少していった。島民は、観光客は増え続けると思っていたが、そ

うはならなかつた。



与論町

2月 25 日



レーズを作ってしまうことが重要。勇気がいることだが、その決断が重要。

■与論島全体の地域水準、環境水準を上げていく際に、土地の使い方、動植物保護、水の流し方等の問題は、将来この島が自立していくための資源となるもので、そこをしっかりと考えていく必要がある。

■サンゴの再生について、全島的な認識共有ができず連帯が進んでいない。国立公園指定された際には、サンゴ再生活動への支援を期待する。



将来の観光

3 月 1 日に国立公園の（観光）利用についての会議（第 2 回目）が開催されました。自然、文化の専門家や、観光関係者、地元行政機関等が集まり、前回会議（昨年 11 月開催）や

沖永良部島、徳之島、与論島で行われた会議での意見等を見据えた持続可能な観光利用の推進に関する提言案について議論されました。

提言案は、奄美地域のいいものを残しながら、それを地

域一丸となって活かしていくこ

うという内容のもので、「国立公園から見た奄美観光のあり方（奄美観光の将来を支える 3 つの柱）」、「奄美観光推進の 4 つの基本方針」及び「国立公園としての主な取組方針」の 3 つで構成されています。

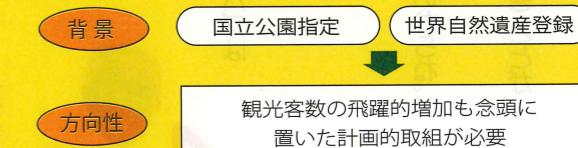
■「国立公園から見た奄美観光のあり方（奄美観光の将来を支える 3 つの柱）」では、

1. 各島の個性を活かした観光利用の推進
2. 群島全体での観光に対する認識共有と連携
3. 地域資源（自然とその恩恵を受けた文化的多様性）の保全と社会経済の発展の両立

を理念とし、

奄美群島における持続可能な観光利用の推進を目指して

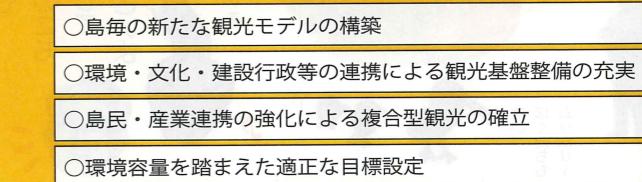
奄美観光の背景と今後の方向性



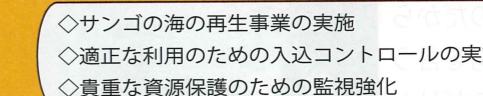
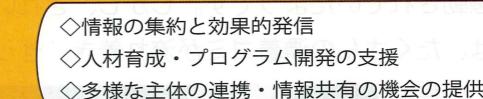
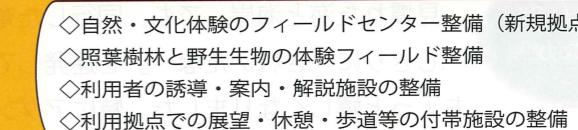
奄美観光の将来を支える 3 つの柱



奄美観光推進の 4 つの基本方針



国立公園としての主な取組方針



■「国立公園としての主な取組方針」では、

- ・自然体験拠点施設や歩道等観光利用施設の整備
- ・人材育成、体験プログラム開発の支援
- ・サンゴの海などの自然再生事業の実施
- ・適正利用と資源劣化防止のための入り口コントロールの実施
- ・貴重な資源保護のための監視強化

などに取り組んでいくこととされています。